

伊原直子 メゾソプラノ リサイタル

ピアノ：森島英子

1部

- 献呈 シューマン
 間奏曲 シューマン
 くるみの木 シューマン
 君は花のごとく シューマン
 ジプシーの歌 Op.103 ブラームス

2部

- 歌劇「ミニヨン」より
君よ知るや南の国 トーマ

歌劇「サムソンとデリラ」より
愛よ弱い私に力を貸して サン・サーンス
君がみ声に我が心開く サン・サーンス

歌劇「カルメン」より
ハバネラ ピゼー

四季工房
ふれあい音楽会

1996年7月6日(土) 6:45PM

会場：浜松市教育文化会館

主催：浜松音楽友の会

明報 13-16

• 112 •

卷之二

(166.8) 手写单

11-2 COPC -

伊原直子メソソプラノ リサイタル



NAOKO IHARA MEZZO SOPRANO RECITAL

●献呈 歌曲集「ミルテの花」作品25より／シューマン

全26曲からなる歌曲集「ミルテの花」の第1曲。詩はリュッケルト。この歌曲集は、ゲーテ、リュッケルト、バイロンなどの詩に作曲されたもので、いわゆるチクリス（連作歌曲）ではないが、強いて一貫性をいえば、ほとんどの詩が恋愛に関係のある叙情的な内容をもっているという点だろう。「献呈」は、況刺としたピアノの伴奏にのって、恋人を想う心がきわめて半直に歌われる。後奏にシューベルトの<アヴェ・マリア>の一節が出てくるのも決して偶然ではないだろう。

●間奏曲 歌曲集「リーダークライス」作品39より／シューマン

「ドイツの森の詩人」といわれるアイヒェンドルフの詩による歌曲集（全12曲）の第2曲。ピアノと歌のこまやかなニュアンスに満ちた応答などナイーヴな美しさに満ちている。

●くるみの木 歌曲集「ミルテの花」作品25より／シューマン

同歌曲集第3曲。木の葉のざわめきを想わせるようなピアノの色彩豊かな分散和音の伴奏にのって歌われる。一見単純なメロディだが、一度聴いたら忘れられない美しさをもっている。詩はユリウス・モーゼン。

●君は花のごとく 歌曲集「ミルテの花」作品25より／シューマン

同歌曲集の第24曲。ハイネの詩によっている。シューマンらしい感傷とこまやかな叙情にみたされた傑作。シューマン独特の和音連打の伴奏音型も印象的である。

●ジプシーの歌 作品103／ブラームス

ブラームスがハンガリー・ジプシーの音楽を好んで書いたことは、いまさら言うまでもないだろう。<ハンガリー舞曲>などのように直接その名が付けられていなくても、室内楽などに多くのハンガリー・ジプシー的音楽が聴かれる。

この『ジプシーの歌 Zigeunerlieder』作品103は、本来ピアノ伴奏をもつソプラノ、アルト、テノール、バスによる四重唱のための作品（全11曲）だが、第1～第7曲と第11曲が独唱用に編曲されたものである。すべての曲が4分の2拍子で書かれている点など、ジプシー的な色彩がきわめて鮮やかに描かれている。

『おお、ジプシよ』『浪だつりマ』『いつかご存じ』『神さま、あなたは知つておいでだ』『日焼けした若者』『三つの赤いばらが』『聖なる誓い』『赤い夕焼け雲』

●歌劇「ミニヨン」より 君よ知るや南の国／トーマ

A.トーマ（1811～1896）は、フランスの作曲家。とくにオペラに人気を博した作曲家だったが、今日演奏されるのは、ゲーテの<ヴィルヘルム・マイスター>による歌劇「ミニヨン」くらいだろう。中でもミニヨンによって歌われる『君よ知るや南の国』は名曲として知られている。

●歌劇「サムソンとデリラ」より 愛よ弱い私に力を貸して 君がみ声に我が心聞く／サン＝サーンス
華麗な色彩をもつピアノ協奏曲などで有名なサン＝サーンス（1835～1921）は、生涯に13曲ものオペラを書き残したが、今日上演されているのは、この旧約聖書に題材をもつ「サムソンとデリラ」だけである。

ペリシテ人の横暴に苦しむイスラエルの救世主として立ちはだかった無双の怪力の持ち主サムソンと、彼の弱点を探るべくペリシテ人が放った妖艶な美姫デリラ。「愛よ弱い私に力を貸して」は第2幕冒頭で、サムソンを待つデリラによって歌われるモノローグ。「君がみ声に我が心聞く」は、同じく第2幕でサムソンの愛の告白に喜んで歌うアリア。感情の高ぶりが官能的に歌われる。オペラの中でもっとも有名なアリアである。

●歌劇「カルメン」より ハバネラ／ビゼー

ビゼー（1838～1875）最後のオペラ、とはいっても、この夭折の天才のわずか35歳の時に書かれた作品である。この、スペインを題材に持つ傑作については説明するまでもないだろう。『ハバネラ』は、第1幕（第5曲）で、4分の2拍子のハバネラのリズムにのってカルメンによって魅惑的に歌われる、ホセを誘惑する歌である。